

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-247	高等学校	外国語	論理・表現 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論 I 706	VISTA Logic and Expression I		

1. 編修の基本方針

本書は、英語学習の特質を踏まえて、特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の3領域を中心とした基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、聞いたり、読んだりして得た情報や考えなどを、論理的に発信できるような思考力・判断力・表現力を身につけられることを目標に編修した。そして、次の3点を教育理念として掲げる。

1. 「ことばの教育」に資する

コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加えて、ことばを通して思考力・判断力・表現力を高め、豊かな言語観を育成する。

2. 「国際理解教育」に資する

ますます複雑化する国際社会の中で、比較文化の視点に立ち、世界のさまざまな言語や民族に対して目を向けさせ、人類としての共通性だけではなく地域や民族の個性も同時に尊重し合う、豊かな文化観と真の国際理解のための資質・能力を養う。

3. 「人間教育」に資する

今日のグローバル社会に生きる子どもたちに、特に話したり書いたりすることを通して、人間としての生き方やものの見方、考え方、ならびに世界観に目を向けさせ、多様化する社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。

英語教育は、学校教育の一環としての人間形成の教育であり、ことばの教育を教科独自の課題とし、国際理解教育に対してはとりわけ大きな役割を担っている。この認識に基づき、上記3点の教育理念を具現化するため、特に次の5点を編集の基本方針とする。

1. 特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の活動を通して、ことばと人間との関係やことばと社会との関係など広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。

2. ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図る。

3. 特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の活動の上で必要な、言語能力の本質としての思考力・判断力・表現力の養成を土台として、中学校までに習得した能力を更に伸ばさせながら、英語の基礎的な知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図る。

4. 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、生徒の興味・関心を喚起する話題やテーマを提示すると共に、対話的な学びや深い学びを引き出す統合的かつ創造的な言語活動を目指す。

5. 生徒の学習段階に応じて自律的な学習のための支援を提供し、主体的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力を養成する。

2. 対照表

本課[やり取り]=LESSON 1、4、7、10、13、[発表]=LESSON 2、5、8、11、14、[書く]=LESSON 3、6、9、12、15

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
題材（テーマ）	①各課でとりあげた題材については、幅広く高校生の知的興味・関心を高めるものを選択し、「生きる力」を育成するに資するテーマを配置した。（第1号）	各LESSON 各Activity Station 各Daily Conversation
	②各題材においては、高校生の感性に訴えるテーマを扱った。（第1号）	各LESSON 各Activity Station
	③個人の能力や創造性を伸ばし、個性を発揮する中で、それらを将来の生活や職業に結びつけることができるような題材の課を設けた。（第2号）	LESSON 1、2、11
	④正義および自他の敬愛と協力など、社会への主体的な参画を扱った課を設けた。（第3号）	LESSON 1、3、4、5、13、15
	⑤生命の尊重を扱った課を設けた。（第4号）	LESSON 9、15
	⑥自然科学、環境を扱った課を設けた。（第4号）	LESSON 7、8、9、15
	⑦日本の伝統文化および他国の文化を扱った課を設けた。（第5号）	LESSON 6、10、12、14 Activity Station 3「スピーチとプレゼンテーションのコツ」
	⑧平和を扱った課を設けた。（第5号）	LESSON 15
言語活動	①本課の言語活動は、取り組む生徒の個性、創造性が発揮されるようにした。（第2号）	各 LESSON [やり取り] の Interview、Game、Quiz / 各 LESSON [発表][書く] の My Opinion、Speech、Writing / 各 LESSON [発表] の Follow Up / Gトレの TRY
	②本課の言語活動は、将来の職業の選択、環境問題、社会貢献、伝統と文化の尊重、平和の問題など、自分の考えをまとめて発信できるような題材を扱った。（第2号、第4号、第5号）	LESSON 2、9、11、14、15 Activity Station 3「スピーチとプレゼンテーションのコツ」
	③ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力して活動に取り組めるように配慮した。（第3号）	各LESSON [やり取り]の Interview、Game、Quiz / 各 LESSON [発表][書く] の Key Expressions / Gトレの TRY
付録	生徒の自律的な学習を支えるコーナーや付録などを配置した。（第2号）	目次 / 各LESSONのGOAL欄 / 本書の構成と使い方 / Toolbox / Functional Expressions / Useful Expressions / 二次元コード（音声など） / Check Yourself / 付録
登場人物	主な登場人物の配置及び活動においては、男女・出身地域の偏りがないように配慮した。（第3号、第5号）	各LESSON 各Activity Station 各Daily Conversation
構成	教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイント、などが生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮した。（第2号）	目次 / 本書の構成と使い方 / 各LESSON / 各Activity Station / Gトレ / Let's Start / 付録「辞書の使い方」など

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 国際理解教育の観点から、特に日本の文化については、理解するとともに発信していく態度を養えるように、話題やテーマ、活動の面で配慮した。
2. 自分の意見や考え、主張などを論理的に発信することができ、また国際理解の観点からも、他の国の人と積極的にコミュニケーションを交わすことができる態度が養えるように、話題やテーマ、活動の面で配慮した。
3. ことばへの関心などについても、多面的に考えることができるように扱った。
4. 人間としての豊かな心や人間のもっている微細な感情を意識し、そしてまた、幅広い観点からものごとを考えることができるような習慣形成に資する話題やテーマを配置した。
5. カラーユニバーサルデザインの見地から、識別しにくい配色を避け、形や記号・番号、説明文などの補助を設けた。
6. 環境にやさしい教科書づくりを心がけた。用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用した。インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-247	高等学校	外国語	論理・表現 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論 I 706	VISTA Logic and Expression I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則に示された教育の方針や高等学校外国語科の教科目標および本書の教育理念に基づき、教科書の構成・配列や各領域などの系統・内容に関して、特に以下のことに意を用いた。

(1)基本方針

- ①多様化している生徒の実態を考慮し、質量ともに充実を図る。
- ②中学校までの体験や学習を踏まえて、中・高の接続が円滑に図られるように配慮する。
- ③3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に表現する能力が育成できるように、構成・内容を工夫する。
- ④教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒たちにわかりやすく提示され、主体的・協働的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力が育成されるように配慮する。
- ⑤基礎的な知識や技能を確実に習得し、それらの知識や技能を目的や場面、状況に応じて活用できる力を、繰り返し段階的に育成できるような教科書構成にする。
- ⑥英語を「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た情報などを基にして、様々な場面に応じて適切に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」ができるようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力が養えるような配慮をする。また、そうしたコミュニケーション活動や体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培える内容にする。
- ⑦学んだ内容の深化・発展に弾力的に取り組めるように、設問や活動などを工夫、充実させる。

(2)本書の特色と編集上の留意点

A. カリキュラムと分量

教材の精選をはかり、カリキュラムにゆとりをもたせた。

B. 題材内容

- 1) 「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」ためのテーマとして、ことばの教育、国際理解教育（異文化理解教育）、人間教育の観点を基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、興味を喚起する内容にした。
- 2) テーマは、日常生活、学校生活、地域・社会、日本の伝統文化・技術、言語、地球環境問題、科学や芸術、スポーツ、歴史や人物、国際協力、人間としての生き方など多様な内容にした。なお、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」ための形式は、会話、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、また発表のための原稿作成などを基本とした。
- 3) テーマの設定や登場人物は、英語が広く使われている現状と国際理解との関係から日本を中心に、主に英米を中心とした英語圏諸国やアジア等の国々の英語話者にし、特に高校生が実際に「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」という状況を重視して、より現実と遊離しない状況を設定した。

C. 言語材料の扱い

- 1) 言語材料は、活発で多様な言語活動を展開することができるように配慮した。
- 2) 「文構造」「文法事項」は表現活動に活用することを基本として精選し、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」上で必要と思われる基本的な事項であるとともに、より運用度が高いものを扱った。
- 3) 本書の導入部として Let's Start を設け、中学校における基本項目の確認とし、本課に負担なく移行ができるように配慮した。
- 4) 「語」は、英語コミュニケーション I 程度の範囲で、表現活動に必要と思われる語彙・連語を精選して取り上げた。
- 5) 「音声」については、標準的な米音を基本とした。

D. 言語活動

言語活動は、特に「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」必然性を重視し、「言語の使用場面」を具体的に提示すると共に、この3つの領域の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な関連が図れるように、各LESSONでは、Key Expressions、My Opinion、課のGOALであるInterviewやQuiz、Speech、Writingのページ、各GトレやActivity Stationなどにおいても形式を工夫した。また、「言語の働き」にも留意し、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」上で多用される表現についても、中学校までの学習を踏まえながら基本的なものを精選し、系統的に扱った。

E. 本書の構成と内容

▶1. 全体の構成

- ① 全体構成は、本課 LESSON (1~15) と Activity Station (1~5) を中心とした。「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」技能を中心とし、その習得を目指す教材としつつ、複数の領域を結びつけた統合的な言語活動が図れるよう配慮した。
- ② 各LESSON では、学校生活、スポーツ、環境問題など、生徒にとって関心のある日常的な話題や社会的な話題の中で自分のことに置き換えて、やり取りや発表をしたり、簡潔な文章を書いたりする練習ができるように工夫した。
- ③ 各Activity Stationでは、「やり取り」「ライティング」「スピーチ・プレゼンテーション」「ディスカッション」「ディベート」の活動において、それぞれの活動の特徴を理解すると同時に、実際の場面を想定し、Let's Try や Follow Upなどを使って練習ができるように構成を工夫した。

▶2. 本課LESSONの構成と内容

- ① Start Up: テーマに関する基本「語句」の導入
- ② Key Expressions: ターゲットとなる「英語表現」
Pair Work: Key Expressions の文をペアワークで「スパイラル学習」
- ③ Listening: Key Expressions の表現をベースにしたリスニング活動
- ④ Useful Expressions: 課のGOALのコーナーで活用できる例文
- ⑤ My Opinion: 自分の意見や考えを書いてまとめる活動
- ⑥ Functional Expressions: 課のGOALのコーナーで活用できる「機能表現」の例文
- ⑦ 課のGOALのコーナー: [やり取り][発表][書く]活動の中で、自分の意見や考えをアウトプットする活動
[やり取り] インタビュー、ビンゴ、英語すごろく、ペアワーク、クイズ / [発表] スピーチ、プレゼンテーション / [書く] LINE、メール、ホームページ、意見・感想文
Tips: 発表や書く時に役立つ「アクセント」「イントネーション」「文の区切り」「音のつながり」「書くための情報」など
Follow Up: 課のGOALの活動に対して、質疑応答などをする活動
- ⑧ Check Yourself: この課で学習したことに対して「自己評価」をするコーナー
- ⑨ Grammar for Communication: ターゲットの文法項目の特徴を、イラストで視覚的に解説
- ⑩ 英語でなんとと言う?: 言えそうで言えない英語表現
- ⑪ Open Sesame!: テーマに沿った「豆知識」

▶3. 上記以外の構成と内容

- ① Activity Station: 「やり取り」「ライティング」「スピーチ・プレゼンテーション」「ディスカッション」「ディベート」の活動の特徴を、絵や図解などで理解する「活動のコツ」シリーズ

- ② Let's Start: 中学校で学習した基礎・基本のまとめの学習
 - ③ Daily Conversation: 「買い物」「レストラン・カフェ」「道案内」「病気やけが」の特有な場面でよく使われる表現を学習
 - ④ Gトレ: 本課で学習した語句や文法事項を定着させるページ。TRYは本課で扱った言語材料を使用した言語活動
- ▶4. 本課LESSONに「Toolbox」、巻末に「表現語彙集」を設け、生徒がテーマに即したより多くの語彙や表現を使用することができるように配慮した。
- ▶5. 巻末には「表現語彙集」の他、「ローマ字表」「辞書の使い方」「否定文と疑問文の作り方」「変化形の作り方」「句読法」「不規則動詞活用表」を設け、学習上の配慮とした。

2. 対照表

	図書の構成・内容 (◎=LESSON ○=課間 * =付録)	学習指導要領の内容
論理の構成や展開及び表現などに関する事項	<p>◎LESSON</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開ができるように、3領域（「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）の活動の達成にふさわしい言語材料や機能表現、語彙、文法項目を選定した。 ・各LESSONに Functional Expression を設け、課題や目標に応じて、特に論理の構成や展開を意識しながら、情報などを効果的に使える表現を提示した。 ・特に、語や文法事項の扱いについては、3領域の活動と効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように配慮した。 <p>○Activity Station</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3領域の活動の基本的な特性を理解し、それぞれの活動への展開がスムーズにできるように構成を工夫した。 	(1)ア (ア)(イ)
情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項	<p>◎LESSON</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、多様なテーマに関心をもてるように、各LESSONそれぞれのテーマを設定した。 ・My Opinion を設け、Hints や Start Up、Key Sentence、Useful Expressionなどを参考にしながら自らの考えなどを書くことによって、場面や課題に即した中核の考えや展開を整理し、それを表現につなげることができるような構成とした。 ・具体的な課題に対して、英語を聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、情報や自分自身の考えなどを表現したり伝え合うことができるように、LESSONをそれぞれ[やり取り][発表][書く]の3つの活動に分け、バランスよく配置した。 ・また、各LESSON内においては、最終の目標へ導くための支援として、Start Up、Key Expressions、Listening、My Opinionなどのプロセスを設け、情報や自分の考えなど、要点や意図などを明確にしながら、適切に表現できるように工夫した。 	(2)ア イ
「話すこと」「やり取り」	<p>◎LESSON</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題についての「やり取り」を通して、自分の考えを伝え合ったり必要な情報を得たりする活動のための支援として、Start Up、Toolbox、Gナビ、Functional Expressions、Useful Expressionsなどを設け、学習者のための一助とした。 ・話題については、日常的なものから社会的な話題まで、上記の各コーナーやKey Expressions、Pair Workなどを活用し、最終的に課のGOALに於いて、自分のことや一般的な話題に関して、論理的なやり取りがインタビューやゲームなどを通して展開できるように工夫した。 ・特に、言語活動において活用頻度の高い慣用表現などを Functional Expressions で系統的に示した。 ・活動の基礎となる文構造や文法事項については、Grammar for Communication を設け、実際の「やり取り」の活動と効果的に関連付けながら、活用できるように配慮した。 <p>○Activity Station</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やり取りのコツ」「ディスカッションのコツ」「ディベートのコツ」においては、それぞれの活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に伝え合うなど、テーマに沿った論理的なやり取りの展開が学習できるように構成を工夫した。 <p>○Daily Conversation、Classroom English</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「買い物」「レストラン・カフェ」「道案内」「病院」「学校」など、日常生活に不可欠なより実践的な場面を設定し、そこで使用される基本的な語句や文、慣用表現などによる対話を通して、必要な情報や気持ちを伝え合う典型的なパターンを提示した。 <p>*付録「表現語彙集」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本課の「やり取り」の活動を、より豊かに活発なものにするために、多くの支援の一環として活動と関連づけた「語彙集」を付した。 	(3)① ア(ア)(イ)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">話す「発表」</p>	<p>◎LESSON</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題についてのスピーチやプレゼンテーションを通して、自分の考えや気持ち、意見や主張などを適切な理由や根拠と共に伝えるための支援として、Start Up、Toolbox、Gナビ、Useful Expressions、Functional Expressionsなどを設け、学習者のための一助とした。 話題については、日常的なものから社会的な話題まで、上記の各コーナーやKey Expressions、Pair Work、My OpinionやHintsなどを活用し、最終的に課のGOALに於いて、スピーチやプレゼンテーションを通して、情報や考え、意見や主張などを伝えることができるように工夫した。 Pair Workでは、自らの経験なども踏まえて、即興で話すことも考慮した。 Follow Upでは、スピーチなどの活動のあとに、聞き手との質疑応答などを扱うコーナーを設けた。 特に、言語活動において活用頻度の高い機能表現や慣用表現をFunctional Expressionsで系統的に示した。 Tipsでは、スピーチやプレゼンテーションにおける「アクセント」「イントネーション」「文の区切り」「音のつながり」を適宜扱った。 活動の基礎となる文構造や文法事項については、Grammar for Communicationを設け、実際の「発表」の活動と効果的に関連付けながら、活用できるように配慮した。 <p>○Activity Station</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スピーチとプレゼンテーションのコツ」においては、それぞれの活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に伝え合うなど、テーマに沿った論理的なスピーチやプレゼンテーションの展開が学習できるように構成を工夫した。 <p>*付録「表現語彙集」</p> <ul style="list-style-type: none"> 本課の「スピーチ」「プレゼンテーション」の活動を、より豊かに活発なものにするために、多くの支援の一環として、活動と関連付けた「語彙集」を付した。 	<p>(3)① イ(ア)(イ)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">書く「文」</p>	<p>◎LESSON</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題についての「書く」活動を通して、自分の考えや気持ち、意見や主張などを適切な理由や根拠と共に段落を書いて伝えるための支援として、Start Up、Toolbox、Gナビ、Useful Expressions、Functional Expressionsなどを設け、学習者のための一助とした。 話題については、日常的なものから社会的な話題まで、上記の各コーナーやKey Expressions、Pair Work、My OpinionやHintsなどを活用し、最終的に課のGOALに於いて、情報や考え、意見や主張などを「書く」活動を通して伝えることができるように工夫した。 言語活動において活用頻度の高い機能表現や慣用表現を、Functional Expressionsで系統的に示した。 Tipsでは、「書く」際に知っておくと便利な情報などを扱った。 LESSON 15は、話題に関して、特に聞いたり読んだりしたことを活用し、また要点や意図を明確にしながら、自分の意見や感想などを、段落を書いて伝え、さらに書いたものを読み合う活動として位置付けた。 活動の基礎となる文構造や文法事項については、Grammar for Communicationを設け、実際の「書くこと」の活動と効果的に関連付けながら、活用できるように配慮した。 <p>○Activity Station</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ライティングのコツ」においては、「書く」活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に段落を書いて伝え合うなど、テーマに沿った論理的な「書く」活動の展開が学習できるように構成を工夫した。 特に、「書く」テーマに関する発想から推敲までのプロセスを重視し、発想のためのステップを踏むことによって学習者の理解のための支援とした。 <p>*付録「表現語彙集」</p> <ul style="list-style-type: none"> 本課の「書く」活動を、より豊かに活発なものにするために、多くの支援の一環として、活動と関連付けた「語彙集」を付した。 	<p>(3)① ウ(ア)(イ)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">言語の働きに関する事項</p>	<p>◎LESSON ○Activity Station ○Classroom English</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動を行うにあたっては、「言語の使用場面」と「言語の働き」の中から、3領域の活動目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ、それぞれの活動の中で、有機的に組み合わせ活用した。 「言語の使用場面」については、本書全体を通して、多様な場面を設定した。(例：家庭、学校、地域、国際社会、本、雑誌、情報通信ネットワーク、買い物、食事、旅行、電子メールのやり取り など) 「言語の働き」については、全LESSONを通して、1つ以上の表現を各活動の中で扱った。(例：相づちを打つ、話題を変える、共感する、感謝する、驚く、説明する、理由を述べる、提案する、賛成する、主張する、誘う、注意をひく など) 	<p>(3)②</p>

※配当時間については、別紙「カリキュラム表」を参照。

カリキュラム表

(L=LESSON)

課	タイトル	主な活動	主な言語材料	主な言語の働き	主な言語の使用場面	配当時間
Let's Start	①アルファベット ②品詞 ③つなぎ言葉ランキング ④語順	話す・書く	アルファベット／語／文構造／接続詞／前置詞			[4]
L1	Bouldering? How nice! ボルダリング? いいね!!	やり取り	現在形 (be動詞／一般動詞)	共感を示す	学校生活／対話・インタビュー	2
L2	Famous People この人は何をした人?	書く・発表	過去形 (be動詞／一般動詞)	発表の始めと終わり	学校生活／スピーチ	3
L3	Aquarium Adventure 今、クラゲに夢中だよ!	書く	現在進行形／過去進行形	許可を求める	日常生活／LINE	3
Gトレ1 (L1・2・3)		書く	(L1～L3 に同じ)			1
Activity Station 1 やりとりのコツ		やり取り			日常生活／対話	1
Daily Conversation 1 「買い物」の表現		やり取り			買い物	1
L4	My Summer Plan JAXAへ行くよ	やり取り	未来表現 (will/be going to)	誘う・提案する	日常生活／対話・インタビュー	2
L5	UFO Sightings キミはUFOを見たことがあるか?!	書く・発表	現在完了形① (経験／継続)	聴衆を引きつける	日常生活／スピーチ	3
L6	Homestay ホームステイにチャレンジ!	書く	現在完了形② (完了／現在完了進行形)	メールのあいさつ	学校生活／電子メール	3
Gトレ2 (L4・5・6)		書く	(L4～L6 に同じ)			1
Activity Station 2 ライティングのコツ		書く			日常生活／作文	1
Daily Conversation 2 「レストラン」「カフェ」での表現		やり取り			食事	1
L7	Which is faster? いろいろなものを比べると...	やり取り	比較 (比較級／最上級／as...as ～)	驚く	日常生活／対話	2
L8	Great Inventions あなたが選ぶすぐれた発明品は?!	書く・発表	助動詞① (can/may)	理由を述べる	日常生活／スピーチ	3
L9	Save the Earth ホテルが住める地球を!	書く	助動詞② (must/have to/should)	事実を伝える	地域での活動／ホームページ	3
Gトレ3 (L7・8・9)		書く	(L7～L9 に同じ)			1
Activity Station 3 スピーチとプレゼンテーションのコツ		発表			学校生活／スピーチ・プレゼンテーション	1
Daily Conversation 3 「道案内」の表現		やり取り			旅行	1
L10	Masterpiece 芸術はこころの栄養!!	やり取り	受動態	同意する	日常生活／対話	2
L11	My Future Job あなたは将来どんな人?	書く・発表	不定詞① (名詞的用法)／動名詞	順序を述べる	学校生活／スピーチ	3
L12	World Heritage モン・サン・ミシエルへの旅	書く	不定詞② (副詞的用法／形容詞的用法)	出典・引用を示す	社会生活／ホームページ	3
Gトレ4 (L10・11・12)		書く	(L10～L12 に同じ)			1
Activity Station 4 ディスカッションのコツ		やり取り			学校生活／ディスカッション	1
Daily Conversation 4 「病気やけがをしたとき」の表現		やり取り			病院	1
L13	Pictogram トイレはどこ?	やり取り	分詞 (現在分詞／過去分詞)	図表を説明する	日常生活／対話	2
L14	Cool Japan ふるしきって、カッコイイね!	書く・発表	関係代名詞	例を挙げる	社会生活／プレゼンテーション	3
L15	What's SDGs? 地球上のすべての人が幸せに暮らすために!	書く	仮定法 (If ～/I wish ～)	意見を述べる	本・新聞・雑誌／意見・感想文	3
Gトレ5 (L13・14・15)		書く	(L13～L15 に同じ)			1
Activity Station 5 ディベートのコツ		やり取り			学校生活／ディベート	1
【付録】 ①表現語彙集 ②ローマ字表 ③辞書の使い方 ④否定文と疑問文のつくり方 ⑤変化形のつくり方 ⑥句読法 ⑦不規則動詞活用表					配当時間合計	54 [58]